

# かけはし

2016  
Vol.74  
November



10月1・2日、イオンモール木曾川にて、国際交流協会設立25周年記念「世界をあそぼう！フレンドシップフェスティバル2016」が開催されました。



# 互いの違いを認め合うために

市民活動支援センター会議室 9.11

一宮市の国際交流協会が設立して、25周年を迎えることができました。日頃から当協会に関わりの深い方々7人を迎え、座談会を開催し、これからの国際交流のありかたについて話し合いました。国を知る交流から、個人を知る交流へと変化し、日常の生活を中心とした問題点まで、幅広い話がありました。ここにその内容をご紹介します。

## 参加者 プロフィール (敬称略)



**木村 エリнда**

一宮フィリピンコミュニティ 元代表

一宮在住29年。「かけはし」第1号の「おとなりさん」(在住外国人紹介記事)に登場。外国語指導助手、日本語指導員として、市内小中学校で活躍。



**佐野 直道**

一宮と世界をむすぶネットワーク 代表

外国人には一宮を第2の故郷に、日本人には世界に目を向けてもらうべく、ホームステイ、料理会、大ボウリング大会などを主催。



**高木 秀寿**

一宮アカデミー 代表

子どもたちが持っている「自ら考え、自ら行動する」力を育て、「自立した人間」を育てることを目指し、子どもの学びの場「一宮アカデミー」を運営。



**中野 紗佳**

当協会親善ボランティア

子どもの頃からホームステイを行う家庭に育ち、小、中、高で豪州、米国に留学。現在、iia通訳翻訳グループボランティアで活躍。



**野田 直人**

(有人の森 代表)

青年海外協力隊を経て、JICA派遣専門家として南米、アフリカなどで活躍。大学の客員教授も務める。著書に『タンザナイト』他。



**森 雅典**

ヒッポファミリークラブ一宮 所属

名古屋大学4年生。さまざまな国の人との出会いとその人の話す言葉に触れるなかで、米国留学をはじめ、ホームステイや海外ボランティアプログラムに参加。



**山端 玉環**

タマキ日中ビジネスコンサルティング 代表

中国出身、中国語教室を運営。日本で生活する外国人が増加する今、日本人と外国人が多文化共生について話し合い、国籍を越えて参加できる機会の必要性を訴える。



**司会**

当協会親善ボランティア  
ニュースグループ

**藤井 文恵**

## 国際交流、私の体験から

- 司会** 本日は、協会設立25周年記念座談会にお越しいただき、ありがとうございます。早速ですが、これまで海外の方々に関わって来られたご自身の体験や、国際交流についての考えをお聞かせいただけますか。
- 佐野** 国際交流は遊びを通じて楽しむことから始まると思います。自分から積極的に働きかけることが第一ですね。
- 山端** 中国人だけのコミュニティはありますが、国際結婚をした人が地域にどう溶け込んでいくかが課題です。国際交流＝外国人と友だちになりましょう、というのは堅苦しく感じます。日本人はホームステイでも親切すぎるので、もっと自然体で接してほしいです。
- 中野** 自分もホームステイの経験があり、受け入れも7年間で40名程になります。島国の日本では異文化や外国の人に触れ合う機会が少ないので、幼少期に外国の人と触れ合う機会があるのは大人になってからの国際理解に大きく影響すると思います。
- 森** 一般的に日常生活の中で、外国の方を身近に感じることは少ないかもしれませんが、自分はホームステイを受けたり、海外へ留学や研修に行くようになって、国際交流は「国」対「国」ではなく「個」対「個」の交流が基本だと思いました。
- 木村** 日本人は家に人を招いて一緒に食事をしたり、お茶を飲んだりして気軽な家族ぐるみの交流をあまりしませんね。
- 高木** 私は子どもの将来のことも思い、3年前に国際交流協会のボランティア登録をして、この3年間で16人のホームステイを受入れました。
- 野田** 私は仕事柄、名古屋に来られた外国人旅行者の通訳などのお手伝いをしています。

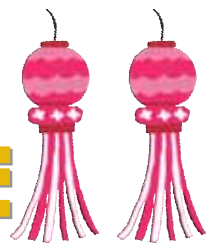
## これからの国際交流について

- 司会** それぞれの形ですでに海外の方と交流されていますが、これからの国際交流についてはどのようにお考えでしょうか。
- 佐野** 外国人たちの遊び（交流）の拠点が一宮にほしいですね。宿泊を伴わない、1日だけの家庭間交流というものもあっていいと思います。
- 中野** イベントを通して日常的に国際交流を深めていけたらいいですね。
- 山端** 国際交流を「多文化共同生活」という言葉に置き換えたらどうでしょうか。外国人とともにキャンプなどして交流の機会を増やしてほしいです。ホームステイの変形として、夏休みなどに空家を利用して外国人たちが宿泊できる場を作れないでしょうか。また、外国人が老後を安心して暮らせるような一宮であってほしいです。
- 高木** 国際交流にビジネスが絡んでもいいのではないかと思います。外国人が住みやすい街をどうつくるかが課題ですね。日本人は国際交流という言葉を使い過ぎます。使わないことが普通になるようにしたいです。
- 木村** 国際交流は、大人は一線を画しやすい傾向があるので、子ども同士から始めてもいいのではないのでしょうか。たとえば秋だとパンプキンパーティなどで、外国の子どもたちをもっと日本に溶け込ませる方法もあります。外国人の気持ちが皆さんに伝えられる場にもなります。
- 野田** 国際交流も「人」対「人」として考えたいです。一宮に住んでいる外国人との交流を、もっと深める工夫をしたらいいのではないかと思います。また、ホームステイも相手からお金をもらってやる、という方法も考えたらどうでしょうか。





# iia設立25周年記念 七夕まつりに参加しました



## 七夕グローバル商店街 イタリア野菜マルシェ& お宝フリーマーケット

7.30~31

今年も7月28日~31日まで恒例の「おりもの感謝祭一宮七夕まつり」が真清田神社の表参道、本町商店街を中心に盛大に行われました。わが国際交流協会も25周年を記念して30・31日の2日間、ブースの出店とパレードに参加することになりました。



お祭りのみに出現した“グローバル商店街”（そんな商店街どこにあったの？）に「イタリア野菜マルシェ」と「お宝フリーマーケット」のお店を出しました。場所は市役所立体駐車場の南側

に新しくできた空間、“夢織り広場”。ただ残念なことのできたたのホヤホヤのためかあまり知られておらず、また本町商店街から外れていることもあって、メインストリートに比べ前を通られるお客様の数が少なく、押すなおすなの大盛況という訳にはいきませんでした。

「イタリア野菜マルシェ」はクッキング班ボランティアのみなさんが今回初めて挑戦され心を込めて作られたイタリアントマト、バジル、まるまる太ったナスやバターナッツ（ひょうたん型のカボチャ）など。なおバターナッツのように、料理の仕方がよく分からないものはやはりなかなか売れませんでした。

「お宝フリーマーケット」では、ボランティアの皆さんから提供していただいた外国で買ってきたお土産などを店頭に並べました。意外なものが売れたりしていましたが、人の好みはわからないものですね。（雲谷齋）



## グローバルパレードだよ～

7.31



国際色豊かなパレードが本町アーケード街で行われました。「AMA AFRICA」の華麗なダンサーを先頭に、JICA中部の研修員、日本語ひろばの学生さん、ホームステイの留学生さん、ボランティアさん、総勢約100名が浴衣や民族衣装を着て、音楽隊のハイテンションなアフリカ音楽に合わせ楽しく行進しました。（akeharu）



## 一宮とイタリア野菜のマリアージュ

ガーランズ 8.24



一宮市の友好都市であるトレビーズ市、そしてイタリアの魅力をもっと知ってもらおうと、今年1月に大好評だった企画「イタリア野菜を咲かせよう」の第二弾が、定員を増やしておこなわれました。

小雨降る緑いっぱいの庭園を背景にガラス張りの会場で、一宮在住のイタリア人バイオリニスト・サルヴァトーレさんと、ピアニスト・石黒美有さんによる二重奏のオープニングセレモニーが行われ、その後、トレビーズ市の紹介をうけました。

続いて、千葉県南房総市でイタリア野菜を専門に作っている田倉ファームの代表・田倉剛さんにその栽培方法や難しさ、おいしい食べ方を教えていただきました。加熱しても煮崩れしない縞模様のゼブラナス。オリーブオイルで焼くだけで、ねっとリクリーミーな味わいになるというフィレンツェナス。酸味と甘みのバランスが絶妙で、天日に干してドライトマトにすると一段と味が

増すイタリアントマト。台風9号の直撃を受ける直前に急いで収穫され、会場に持ち込まれた色鮮やかな野菜を前に特徴を聞くと、どの野菜もますますおいしそうに見えてきました。すっかり魅了され、「あぁ、イタリア野菜を全部食べつくしてみたい！」という参加者の声も聞かれました。

休憩をはさんで、いよいよ田倉さんが育てた野菜を使ったランチの時間。ガーランズのシェフによる料理のほか、修文大学短期大学部製菓コースのみなさんがこの日のために特別に考案したパプリカのムースなどを、buffet形式で食べ、イタリア野菜の魅力を満喫しました。(伏原)

### 友好都市トレビーズ市PR事業

## イタリア野菜を咲かせよう



### イタリア野菜を身近に感じる料理教室

修文大学短期大学部 調理実習室 8.25

友好都市トレビーズPR事業としての料理教室。講師にサルヴァトーレさんを迎え、一般参加者と協会ボランティア総勢50名でイタリア野菜を使ったイタリア料理教室を開催。この企画は修文大学の



全面協力を受け、調理室の提供と先生・学生の助けを借り進められました。その上、イタリア野菜の生産者田倉さんにも立ち会ってもらい、野菜の説明

も受ける万全な体制の料理会となりました。

メニューは、イタリア人講師のこだわりを感じるフィレンツェナスとハムのチーズ巻き・トマトソースがけ、小型のパプリカ（ミニレッドベル）のシーチキン詰め、シチリア風ペーストの Pasta。すべての品目にイタリア野菜をふんだんに使い、

家庭料理を再現しました。とくにパスタはアーモンドのロースト具合とトマトの酸味も加わり、とても美味しく仕上がっていました。

参加者は、実物のイタリア野菜を觀賞しながら、自分たちで作った料理を食べ「本物を食べることができた！」と感動し、また、田倉さんも手塩にかけて育てた野菜を使った料理に「生産者冥利につきますね」と、誰もが大満足の料理教室となりました。(佐野)



# イタリア人国際交流員着任のお知らせ

## はじめまして！アレと呼んでください！

### グリッロ・アレッサンドラ Grillo Alessandra

一宮の友好都市、イタリア・トレビーズ市出身。  
27歳 160 cm 両親と姉一人の4人家族。  
祭り、旅行、異文化の習慣、食べ物、ドラマが  
好き。(2016年8月3日着任)

みんなに「どうして日本に興味をもったの？きっかけは？」という質問をよく聞かれます。

実は、私もよくわかりません！子どもの頃から家族とよく旅行しましたから、様々な国の文化や習慣に興味をもつようになりました。それがきっかけかどうかはわかりませんが、子どもの私には日本は遠くて面白そうで、なぜか気に入りましたので、中学のときに日本語を勉強することにしました。

ヴェネツィアのカ・フォスカリ大学で日本語を専攻して、大学時代に2回日本に留学しました。そのときはっきり分かりました。日本にいと幸せで、何にでもやる気が出るので、ここで生活し

てみようと思いましたが、帰国してから大学を卒業し、すぐ日本に戻って、日本語学校に通いながら仕事を始めました。

日本にいればいるほど、日本のことを自分の国と同じように感じます。

イタリアと日本がお互いに理解を深められるように力を入れたいと思っています。

これから国際交流員として小中学校で子どもたちにイタリアの国や文化、面白いところ・特徴を紹介したり、セミナーで一宮の市民のみなさんに観光地や食文化やワインのことなどをお話ししたりしたいです。それで一宮市の友好都市・トレビーズ市との交流を進めてもっと深めたいと思います。

これから国際交流員としてだけではなく、一宮市民の一人としてもよろしく願いいたします！



前日の雨で大変な蒸し暑さにもかかわらず、英語を話したいと思っている仲間がやって来ました。毎月1回開催され、今回が5回目です。

参加者はサラリーマンだった人、主婦の人、子連れの親子、学生さん、一宮に住む日本人の家でホームステイ中のイタリア人の女性などさまざまです。

進行役は、国際交流員のロザンナさんとアレッサンドラさん。アレッサンドラさんは、2週間前にイタリアから来たばかりの国際交流員です。

毎回参加している顔なじみの方も多く、10時になると今まで日本語だった会話が、ロザンナさんのあいさつとともに英語に変わりました。

3つのテーブルに分かれて、まずは自己紹介から始まります。リオオリンピックの日本人選手の活躍でも話が盛り上がっていました。

## English Free Talkの時間

オリナス一宮 8.16



少しずつ、自分たちの話をし始め文法は気にしません。自由に話したいことを話す人、またそれを受け止める仲間がいて、皆さんの話したい気持ちがいっぱい伝わりました。保育園と幼稚園に通っている兄弟の二人も、英語で自分の名前を言っていました。ここに来て

いるメンバーは市内の人ばかりでなく、北名古屋市や江南市など、近隣からの参加者もたくさんいました。

この会は、国際交流員の通常業務の空き時間を活用して実施するため、前もっての設定が困難になります。開催スケジュールは協会Facebookページで随時案内していますので、チェックしてくださいね。

どなたでも自由に参加できるので、英語で話し

たい人はどんどん集まれ！（みかん）

iia Facebookページ

<https://www.facebook.com/iia138/>

## 国際交流協会に求めること

**司会** 日常生活の中での交流へと変化していくことで、外国の方をもっと身近に感じることができそうですね。

**木村** 25年前に協会ができたとき、いろいろ交流もでき、相談にも乗ってもらえると思っていたのですが、ちょっとがっかり(苦笑)。子どもの教育環境に力を入れてもらえると嬉しいです。ただ、協会の活動目的がまだよくわかりません。

愛知教育大学が外国人の進学についての小冊子を作っているのですが、この活用方法をぜひ考えてください。私たちはイベントだけでなく、生活の場としての交流をしたいです。とくに、いい形で子どもを成長させる場を作ってほしいです。

**中野** 一宮市の友好都市であるトレビーズとの交流は、ごく一部のの人たちに限られています。市民との交流の場も広げてほしいです。一宮市の行事などへの参加の仕方を、具体的に考えてあげてもいいのではないのでしょうか。協会の活動を、いろんな形でもっと発信してほしいです。

**山端** 駅や商店街、市役所などの案内表示や看板に、中国語や英語、ハングルなどの外国語をもっと表示したらどうでしょうか。そうすれば、外国人も自分たちが大切にされていると感じ、一宮に来てよかったと思えます。



## 座談会に立ち会って

**司会 (ニュースグループ 藤井)**

やはり外国の人が日本に生活するには、子どもの教育環境の充実は大きな課題ですね。しかし協会の役割はあくまでも一般市民が外国人に関心を持つきっかけを作ることが中心なので、市役所全体で取り組むべき問題がたくさん出ました。

**記録 (ニュースグループ 橋本)**

国際交流という言葉に違和感を持つ人が多いようです。また、外国から移住してきた人からは、子どもの将来を心配する声が多く聞かれました。

日本人と外国人の生活習慣や考え方、文化の違いが浮き彫りになりました。したがって彼らの望んでいることと、日本人がしてあげたいことにギャップがあります。もっと交流が進んでいけば、互いの違いを認め合っていけるかなと思いました。

**国際交流協会事務局**

生活面・教育面の課題が多く指摘されました。協会では、すでに生活相談事業や外国にルーツをもつ子どもたちへの日本語指導に取り組んでいますが、まだ要望に応えきれていないことがわかりました。また、ビジネスやインバウンドなど協会事業の範ちゅうを超える意見も多く寄せられました。他の部署や機関と柔軟に連携し、時流に沿った活動が求められていると感じました。

## 編集後記

私は東京出身で、こちらに参りまして10年が経ちました。一宮の良いところは心のふれあい。今年7月のある日のこと。市役所本庁舎のほか、途中でいくつか用事もあったので、寓居から本庁舎まで自転車で行くことにしました。ところで、本庁舎には自転車置き場はあったかなと思い電話をかけたところ、「ありますよ。今日も暑いので、お気を付けてお越してください。」とのお言葉をいただきました。窓口の方のさりげないお心遣い。はて、東京のお役所ではこんな言葉があったかな? (TH)

# 地球あっちこっち

## 一歩ずつ前へ、七転び八起きの活動

青年海外協力隊OB 中村 健二

2014年3月～2016年3月の2年間、青年海外協力隊としてスーダン共和国で活動しました。スーダンと聞いても何もイメージが湧かない人が大半だと思います。国際情勢に詳しい方で紛争、飢餓というネガティブなワードが出てくるでしょう。そんな地理的にも、意識的にも遠いスーダン。実は私にはこの国が、協力隊を一つの進路として考えさせられた国の一つです。大学生の頃、アラビア語の勉強と卒業論文の調査のため、エジプトに数カ月滞在しました。その時、エジプトの稲作と水利用について調べていて、ナイル川の上流の国ももっと調べてみたいという気持ちになりスーダンを訪問しました。そこで、明らかに私たちより生活水準が高くなく厳しい生活をしているスーダンの人々を目にしました。彼らは表面的な幸せよりも人との良好な関係性や心の美徳意識がとても高く、人間として素晴らしい人にたくさん出会いました。彼らの精神の背景は、生きていくのに厳しい砂漠で生活をし、水や食べ物を分け合い助け合いながら生きてきた歴史があるそうです。この経験からもっと現地の人々の暮らしや歴史について知りたい、最終的にはスーダンやアラビア語圏で仕事がしたいという思いがより強くなり、大学を卒業してから、商社勤務を経て協力隊に応募、運よく第一希望のスーダンに赴任することになりました。

### 【任地について】

任地は首都ハルツームから約600キロ離れたカッサラ州にある農業省農村開発部の普及センターです。この州の主要産業は農業・畜産（ラクダや羊の輸出）。砂漠地域であるこの伝統的農産物は暑さや乾燥に強く、年に一度の雨季でどうにか育つモロコシを一度の栽培で一年分収穫しています。また地下水をくみ上げて行うバナナ、マンゴー、グレープフルーツ、オレンジなどの果樹栽培が盛んで、スーダン国



内では果物の名産地として有名です。一方で、中国政府の援助で整備された道路や鉄道などにより、今日ではその物流インフラ沿いに産油国から来た農業企業などが投資をして大規模な農地が首都近郊にたくさん作られています。このような新しい商流にこの地域の産業は変化を求められています。さらに、8年前から続く激しいインフレの中で特に地方の人々の生活がとても厳しく、親が3つか4つの仕事を掛け持ちして息子たちにも仕事をしてもらい、やっとギリギリの生活を送ることができている状態です。

### 【活動について】

このような状況下で現在、比較的時間に余裕のある女性たちも収入向上のために社会進出が求められていて、私が赴任していた普及センターにも村の女性たちが訪問し、仕事や生活に役立つ技術やノウハウを学んでいました。どんなものを作れば彼女らの生計に役立つか考え、ドライフルーツ、アイスクリームなど比較的インフレの影響を受けない地産地消を目指しましたが、思い通りに物事は進みません。アイスクリームは度々おこる停電により鮮度を保つことができず失敗。ドライフルーツは生産者である女性たちに不人気で続きませんでした。そして最後にうまくこの仕組みにマッチしたのが、ミニクワツサンでした。現地に



は大きなパンを食べる習慣があっても、一口サイズのパンや菓子パンは売られていなかったの、学校終わり子どもたちにはこのミニクワツサンがとても人気になりました。離

任直前には、現地でも初めての試みとなる、各普及センターの女性たちの活動紹介イベントを開催したところ、現地メディアにも報じられ、有志で仕事をしてくれた村の女性や同僚たちの活動を評価してもらうことができました。

### 【最後に】

今でもこの現地の方々と連絡を取り、ミニクワツサンを今日作ったよという報告をもらおうと、とても嬉しい気持ちになります。これからは、この地区のような農村地域が都市部や外部要因に影響しない自立して発展していけるような地域づくりを学ぶために大学院に進学して、より社会に貢献できるような人間になりたいと考えています。

発行 一宮市国際交流協会 (〒491-8501 一宮市本町2-5-6 一宮市生涯学習課内)

ご意見・ご感想お待ちしております 【TEL:0586-85-7076 E-mail:kokusai@city.ichinomiya.lg.jp】

当協会に関する情報はウェブサイト・Facebookページもご覧ください

【WEB:<http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/iia/> Facebook:<https://www.facebook.com/iia138>】

\*この「かけはし」は、協会ボランティアにより取材・編集されています。

みなさんも国際交流協会親善ボランティアに参加しませんか？お気軽にお問い合わせください。